

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4271401822		
法人名	社会福祉法人 楽々会		
事業所名	グループホーム楽苑 楽1棟		
所在地	〒859-1402 長崎県島原市有明町湯江乙1138		
自己評価作成日	平成30年8月31日	評価結果確定日	平成30年11月30日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

全員が女性職員にて対応しており、常に笑顔を決やさず細やかなサービス提供をしている。開設当初からの職員が多く連携体制も取れ、利用者との信頼関係も築けている。利用者一人ひとりのことを考え、その人に合った支援を心掛け利用者が毎日笑顔で楽しく過ごせるよう日々努めている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JigyosyoCd=4271401822-008&PrefCd=42&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 医療福祉評価センター		
所在地	長崎市弁天町14番12号		
訪問調査日	平成30年10月24日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

運営面の項目において、事業所理念の「一日一笑」が職員間に浸透していて、且つ、一体的に実践されている点である。皆で考えて文書を作ったというプロセスも評価できるが、笑いだけではなく喜びも悲しみも、そして楽しみも全て利用者と共に共有するという、事業所理念には家族的な関わりを持つという潜在的な意味がある点も、奥深く優れている点の一つと言える。更に勤続年数の長い職員が多い点も優れていて、上位者と職員の風通しの良さや、職員同士においてはお互い様の精神で働くことができてきている結果である。次にその人らしい生活支援の項目においては、支援の軸となる介護計画の原案をユニットで分別せずに、全職員が全利用者の内容を検討する仕組みを作っている。職員は全利用者を知ることの機会を意図的に持つことで、能動的に利用者に関わることができている。また医療依存度の高い利用者に対して看取りまでつなげている。利用者や家族が望むだけではなく、職員が看取りたいという意思を示している点は、最期まで関わりを持ちたいという職員個人としての考え方と、専門職としての役目を全うしたいという両面を示唆していた。最後に食事であるが、全職員が手作りでバランスだけでなく盛りも工夫を施した食事を提供している。器にもこだわりを持って、五感に響く食事を提供していると換言できる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念を「楽苑は楽しい苑、楽しくなければ楽苑じゃない」、事業所理念を「一日一笑」(いちじついつしょう)と掲げ、利用者・全職員が笑いの絶えない事業所になるよう取り組んでいる。	現在のグループホームの事業所理念「一日一笑」は、2年前の外部評価の際に、自ら目標を掲げて見直した経緯があり、職員皆で考えた文言となっている。誰もがわかりやすい文言であり、且つ、今までの想いの詰まった奥の深い言葉として、事業所では位置付けられている。理念の実践に関しては、実施状況が普段の利用者支援の中で端的に表れるため、上位者は評価しやすいし、職員もお互いに心掛けることができている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の保育園への慰問、中学生の福祉体験、婦人会との交流、老人会のグラウンドゴルフ大会、地元消防団との消防訓練、子供110番にもなっており、日常的に交流し、つながりを持ちながら暮らしていけるよう努めている。	地域との関わりに関しては、事業所が開設されてからかなり歴史があるため、地域の中に自然な形で存在しているグループホームという印象であった。根拠は老若男女問わず様々な地域住民が訪問したり、職員が出向いたり、相互通行の関係を構築していることを、資料等で確認した点である。実際に調査員がグループホームに訪問してヒアリングをしている最中に、近隣の保育園の児童が散歩中に何の連絡等なく挨拶に訪れた。その他、地域の敬老会に職員と一緒に利用者も参加したり、地域の文化祭に職員が本格的な出し物や衣装等で参加する等、挙げればきりが無いほど関わりを持っていた。	グループホーム楽苑として、地域との関わりは密に持つことができているが、利用者の重度化に伴い、個別的関わりが今までのようにできなくなっている。利用者の関係継続の項目も含めて、個別的支援の更なる充実を期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の敬老会や町の文化祭等への慰問、運営推進会議を通じて、認知症に対する理解や支援方法を地域の方に向け活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二ヶ月に一度会議の開催をし、サービスの内容や身体拘束の取り組み内容、現状報告等の話し合いや意見交換を行い、職員間でも共有し、サービスの向上に努めている。	運営推進会議の参加者は、傾向として固定化されているということであったが、近隣の住職が参加する等、多様な参加者を確認することができた。会議ではグループホームで実際に起きている定例報告を行うと、参加者は大変共感してくれることが多いということで、職員のモチベーションにも繋がっているとのことであった。また、楽苑における運営推進会議の特徴としては、介護の中でちょっとした勉強会を行ったり、昼食の試食会を行っている点である。試食会に関しては利用者が普段食べている食事を、第三者が実際に食べてみるという、非常に評価できる取り組みを実践している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護相談員が月に一度来られ、利用者と接し、話を聞きながら現状を把握し、事業所の実情やサービスの取り組みなど伝え、問題の改善やサービスの質の向上が図れるよう協力関係を築いている。	運営推進会議の際に市の職員が参加しているので、定期的に情報を共有する機会を持つことができている。この関わりに加えてグループホーム楽苑では、5か月間の期間限定ではあるが、毎月1回介護相談員を受け入れた。後日相談員から訪問した際の報告書が送られてくるため、客観的な視点からの意見をもらうことができている。第三者の意見を基にして、利用者へ支援内容をフィードバックできている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行わないことを全職員が理解している。勉強会も三ヶ月に一度は行い、事故等の危険性がある場合は家族との相談のうえ同意を得て、方法・期間を定め常に改善できるよう取り組んでいる。玄関の施錠も行っておらず、センサー音にて対応している。	身体拘束や虐待に関しては、法人として気を緩めることのないように、定期的な勉強会を開催している。また、やむを得ない事由で拘束を行う場合は家族に説明と同意を得て、毎月、保険者にも実施状況を提出している。報告書の提出と同時に、少しでも改善できる点がないか、職員会議の場で話し合いを持つようになっている。また言葉使いに関しては、調査員がグループホームを訪問した際、利用者に対する職員の言葉かけは優しい印象で、違和感なく穏やかな口調であった。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全職員が虐待があってはならないことを理解し研修会も行っている。言葉かけや態度一つにしても注意を払い虐待防止の徹底に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会等で学ぶ機会があり権利擁護を利用されている方からも話を聞き、必要性がある方には話し合い、活用できるよう支援している。 現在2名、権利擁護を利用されている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前には施設を見学して頂いたり、利用者や家族の要望等を十分に伺い説明をし、理解・納得を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会時に要望を伺ったり、玄関にアンケート・意見箱の設置、介護相談員への相談等、外部者へ表せる機会を設け運営に反映させている。	家族との情報交換や意見聴取は、基本的に面会の時や計画書の見直しの際が頻度として多いとのことであった。また、急を要する電話連絡の際にも情報収集したりしている。利用者、家族等意見の反映の項目のうち評価できる取り組みとしては、外部から介護相談員を介入させて、第三者による利用者への意見収集ができてきている点である。利用者からの意見は、報告書としてグループホームにも届くため、サービスの質の向上に一役買っているとのことであった。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議や、毎朝の申し送りなどで日常的に相談や意見を聞く場を設け、話し合いや意見交換などにて反映させている。	上位者が職員の意見を聴く機会として、日常の業務の中や休憩中等、普段の関わりの中が一番多いとのことであった。運営等に関しては上位者で解決できること、職員間で解決できること等分別して対応するようにしている。職員同士で解決できることに関しては、お互い様の精神で協力体制が構築できているとのことであった。また月に1回開催している職員会議の場は、敢えて固くならないように意識して、職員が意見を発しやすい環境を作っているとのことであった。このような環境からか、職員から提案は多く、足置き等の物品を「買う」前に「作る」という工夫点を、グループホームの至るところで確認することができた。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の能力や実情などを把握し、各自がやりがいや向上心を持って働けるよう職場環境や条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の能力や力量を把握し、常時施設内研修を行い、外部研修にも参加を促すことで各自の意識向上につなげやりがいを持って働いていけるよう努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会や講習会、施設訪問見学にて、他事業所との交流や意見交換等の場を持ち、サービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の不安に思っていることや、困っていること、要望等について否定はせずに話を聞き本人が安心して生活できるような信頼関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人だけではなく家族からも不安なこと要望等について話を伺い、相談しながら家族にも安心して頂けるような関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族の意見のもと、今、必要としているサービス支援を見極め、より良いサービスができるよう対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の能力を見出し、役割を持って生活をしてもらうことで、介護される立場だけではなく一緒に生活を共にする関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の面会時には、日常の様子を伝え、本人の今の状態を把握しながら、家族との時間も大切に、共に本人を支えていく関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入所前からの主治医の継続、理美容院の利用、自治会の敬老会への参加等や知人の方が気軽に面会に来られる雰囲気作りなど馴染みの関係が途切れないよう努めている。	関係継続の支援については、グループホームだけではどうしてもマンパワーや時間、ハード面等で限界があるので、家族に依頼して協力できる部分をお願いして、一体的に支援する方針を確認することができた。できるだけ入所前の関係を変えないようにしているため、意思表示が難しくなってきた利用者は、家族に相談したり、生活歴を振り返って支援内容等を確認するようにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し、関わり合いにも注意しながら孤立することなく共に支えあって生活できるような関係づくりに努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	近くに入院された方にはお見舞いに伺ったり施設外で家族の方へ会った時には、現在の状態や経過を伺うなど、その後の相談や支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人との話し合いなどで思いや希望、意向を伺い困難な方でも態度や会話、言葉の流れの中で意向の把握をし、希望に沿えるよう努めている。	リビングや居室、入浴時等日々の支援の中で利用者の意向を聞き取っている。一人でゆっくり職員と話をしたい利用者は、夕食後に夜勤の職員と歓談している。食事のメニューに関しては、食べたい物の希望を汲み取っている。意向の確認ができない方には、家族の面会時に、本人が表せない思いを聞き取るようにしている。「あなたの願いを叶えましょう。」という取り組みを、次年度企画している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人・家族より今までの生活歴や生活環境等を伺い、これからの支援に役立て、今までの暮らしを維持できるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人の日々の生活状況、過ごし方、心身状態等を常に把握し、その人の有する能力等の現状把握に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の思いや願いなど話を聞き、生活していく中でより良く暮らしていけるような課題を立て、本人・家族と意見交換を行いながら、現状に即した介護計画を作成している。	本人や家族のニーズを聞き取り、職員全員が2ユニット18名の利用者を、よく知りよくみるという姿勢を基本としている。アセスメントの課題を中心に、独自の書式の介護計画書に、自分たちの言葉で目標設定を検討している。支援についても、常に介護計画と照らし合わせ、状況の変化に応じて変更を行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人カルテに日常の様子やケアの実践、結果・気づき等を記入し、職員会議や申し送り等で情報を共有しながら、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	お風呂が好きな方には毎日入浴可能で、一番風呂に入ってもらったり、外出が困難な方のために出張サービスの理容師に来て頂き散髪をしてもらうなど、その時々に対応したサービス支援に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の保育園児や婦人会の慰問、地域の自治体や消防団との連携などにて安全で豊かな暮らしができるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前からのかかりつけ医を大切に、希望があれば相談のうえ、適切な医療が受けられる病院受診を行っている。	本人・家族の意向により、在宅時のかかりつけ医や協力医を選択してもらっている。グループホームの協力医も熱心で、緊急時や頻回な往診にも対応されており、医療依存度が高い利用者とも連携が図れている。受診は基本家族としているが、施設対応も行っている。受診報告は、都度家族へ行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師連絡ノートも作成し、定期的に情報を伝え、相談しながら緊急時もすぐに対応できるようにしており利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際、安心して治療ができるよう精神面でも不安にならないようお見舞いに伺ったり早期退院ができるよう病院関係者との情報交換に努め、相談しながら退院後も安心して生活できるよう支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や、終末期のあり方について家族と話し合いを行い要望を伺いながら支援に努めている。看取りまでお願いされた場合も、十分な話し合いを主治医も交えて行い、家族が納得できるような可能なかぎりの支援に努めている。	本人や家族から「最後は楽苑で」、という言葉がよく聞かれるとのこと。グループホームとしてそこまでの信頼関係を築けていることは、大変嬉しい事だと話される。入所時に看取りについて指針で説明を行い、同意を得ている。医療との連携を図りながら、穏やかに終末期を過ごしていただくように支援している。夜間帯も新人職員が不安にならないように、ベテラン職員と組むように配慮している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署より、定期的に救急指導を受け訓練を行っている。AEDも設置しており、急変時も病院や救急車への連絡、必要な応急処置ができるよう努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	消防署立会いのもと定期的に避難・消火訓練を行っており、地元消防団にも出席して頂き連携体制を築いている。日常的にも訓練を行い全職員が対応できるようにしている。火災を未然に防ぐため、スプリンクラーの完備・防災カーテン使用などの対策もしている。	防災の手引きや対策マニュアルを完備しており、年2回の火災訓練と防災訓練を行っている。地元消防団とも避難訓練を行っている。備蓄品は、水・乾パン・カップ麺・パンがあり、防災カーテンも白のレースでお洒落なものとなっている。法人、地域住民の協力のもと、非常災害時の対策に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人の言葉や思い、考えなどを否定せず尊重しプライバシーを損ねない言葉かけや対応に努めている。自室の入口も開けたままにせずカーテンを閉めるなどプライバシーの確保に努めている。	職員研修会を3か月に1回行い、プライバシーの確保や人格を尊重した支援・言葉使いの対応について考え実践している。排泄の声掛けも、周りにわからないように配慮している。家族のように接しながらも、尊厳を損なうことのないように、丁寧な言葉使いを心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が思いや希望を表したりできるよう対応や言葉かけに努め、話を聞き、難聴の方には筆談やジェスチャーなどで自己決定できるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切にし生活のリズムを崩さず、その日をどのように過ごしたいか体調や気分なども考慮しながら希望に沿って支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出が難しい方には出張サービスの理容師に来て頂いたり、馴染みの理美容院の利用にて散髪をしてもらったり、季節ごとの洋服選びなどその人らしい身だしなみができるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の見た目や盛り付け、好みや量も考え旬の食材や食器なども工夫して提供している。饅頭作りや野菜の皮むき、準備や片付けなどその人の力量にあわせて、職員と一緒に楽しみながら支援している。	食事は3食とも全て職員の手作りにて、栄養バランスが摂れ、利用者一人一人に合わせた食事形態の提供を行っている。器や盛り付けにも工夫があり、より一層美味しいものとなっている。誕生日ケーキやお正月のおせち料理等、行事食にも力を入れている。運営推進会議で昼食試食会を行い、関係各位に好評を得ている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの状態に合わせて水分量や食べる量、栄養のバランスを考え、提供している。飲み込みが悪い方にはミキサー食やとろみ食にして提供、どうしても栄養が取れない方には病院処方の栄養ドリンクなどにて、その人に応じた支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりにあわせ歯磨きやうがいの介助を行い、入れ歯の方にはポリドントケアにて口腔内の清潔保持に努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定期的にトイレ誘導を行い、できるだけトイレでの排泄ができるようチェック表を活用し排泄パターンをつかみ支援を行っている。	排泄チェック表にて排泄パターンを把握している。声掛け、トイレ誘導を行いトイレでの排泄支援を行っている。チェック表を活用することで、紙パンツの使用を最小限にできるように支援している。水分量のイン・アウトは個人日誌に落とし込み、終日の記録となっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェック表にて、毎日の排便の有無を確認し、その人に応じた水分・食事量の工夫や運動にて便秘予防に取り組み、どうしても時は下剤の調整にて対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	毎日の入浴が可能であり入浴前に本人に伺ったりと希望に沿って支援している。体調不良時で入ることが困難なときには、清拭や足湯などを行い清潔を保てるよう支援している。	浴室と脱衣室が広く、ゆったりと入浴ができる。毎日の入浴が可能であり、体調に合わせて柔軟に対応し、午後入浴が行われている。利用者の動作に応じて、職員は介助している。個人のシャンプー持参や、ゆず湯・菖蒲湯といった季節湯にて、楽しい入浴となるように取り組んでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の自室には以前から使い慣れた備品を置いてもらったり、生活習慣を把握しながら状態に応じて安心して休息が取れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬は全て施設で管理しており個人のお薬ファイルにて、目的や用法の理解をしている。薬の用量などの変更時には、その後の体調、症状の変化を見逃さず、病院との連携にて早期発見に努め支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常生活の中で本人の力量を把握し役割を持って生活してもらうことで、喜びのある日々が過ごせたり、楽しみごとを見つけることで気分転換などできるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	施設でも花見や買い物、保育園への慰問など出掛ける機会を作り、家族の面会時には本人と一緒に外出や苑外への散歩など、共に協力しながら出かけられるようにしている。体力的に難しい方でも負担にならない程度に苑内外への散歩などの支援をしている。	天気がいい日には、自然豊かなグループホーム周辺の散歩を行い、四季折々に花見や外食へ出かけている。近隣の保育園との交流は楽しみの一つとなっている。年末には法人全体の忘年会を企画しており、利用者が楽しめるように「一日一笑」の理念に即した支援を行っている。重度化に伴い、全ての利用者に等しい外出支援ができなくなっているのが、今後の課題であるとのこと。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の管理は家族が行っているが、本人が買い物をしたい時は、小遣いをお渡しし支払い時に金額の理解が出来ているか見守り確認しながら自分で使えるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	いつでも電話が使える、本人自らが携帯電話を持たれたりと使用できるようにしている。手紙などの代筆や投函の手伝いなども行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	建物の天井自体も高くしてあり、光のバランスや照明にも気をつかい刺激が無いよう配慮している。トイレにも天窗があり、昼間は照明がいらぬような造りになっている。有線放送の設置もしており、季節にあった曲や利用者の希望曲なども流し、リビングには苑外に咲いている花々を飾ったりと、居心地よく過ごせるようにしている。	施設の名称「楽苑」の由来のごとく、南国の楽園をイメージした調度品や輸入家具がふんだんに配されている。和洋折衷の建築であり、落ち着いた雰囲気となっている。リビングは天井が高く採光が入り、大変明るい。玄関や壁面には、利用者や家族の作品が飾られている。有線放送が流れ、床暖房にスペアガラス使用と、心地良い共有空間となっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	施設内の至る所にソファやイス、テーブルの設置をしており、リビング内には畳間もあり、一人ひとりがリラックスできる場所を見つけ自由な時間が過ごせるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	以前から使用している家具や備品類の持ち込みもでき、本人の使い慣れたものに囲まれ、配置も本人の状態を見ながら設置をし、居心地良く過ごせるようにしている。	2ユニット18部屋は、中庭を囲む回廊となっている。居室も廊下も幅が広く、ゆったりとしている。居室は利用者の意向を受け、ドアをレースのカーテンで開放し、風通しを良くするとともに孤立化を防いでいる。居室には、思い思いの家具や家族の写真を飾っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内の至る所に、手すりを設置しており自力にて歩行しやすいようにしている。リビング横のトイレや浴室もバリアフリーになっており車椅子でも通りやすいようにしている。自室のベッドにも起き上がりしやすいよう手すりを設けたりと、本人が安全に自立した生活が送れるようにしている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4271401822		
法人名	社会福祉法人 楽々会		
事業所名	グループホーム楽苑 楽2棟		
所在地	〒859-1402 長崎県島原市有明町湯江乙1138		
自己評価作成日	平成30年8月31日	評価結果確定日	平成30年11月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php?action_kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JigyosyoCd=4271401822-00&PrefCd=42&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 医療福祉評価センター		
所在地	長崎市弁天町14番12号		
訪問調査日	平成30年10月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

職員全員が女性なので、女性の利用者さんが日々の生活介助の中で感じる不安や羞恥心への軽減や、きめ細やかな対応につながっていると思います。
施設内にあるブルーベリーやいくりを収穫してジャムにしたり柿を収穫して干し柿にしたりと、季節ごとの楽しみがあり、今年はどれだけ実ののかなあと、利用者さんの毎年の楽しみとなっています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念を「楽苑は楽しい苑、楽しくなければ楽苑じゃない」、事業所理念を「一日一笑」(いちじついっしょう)と掲げ、日々の業務の中で取り組んでいる。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	婦人会の方々の慰問、中学生の福祉体験、近隣保育園との交流、地元消防団の方々との交流、近所の農家さんから畑の野菜を頂いたり、日常的に交流がある。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	敬老会での自治会慰問や運営推進会議を通じて、地域貢献や地域の人々に向けての理解に活かしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二ヶ月に一度、会議を開催し、現状の報告や日々の取り組みを報告し、意見交換をしてサービス向上に活かしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に参加して頂き、日頃の実情や取り組みを報告し協力関係を築いている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	基本的には身体拘束は行わないことをスタッフ全員が理解したうえで、どうしてもケガの危険がある等やむを得ない場合にのみ、家族に相談・説明し同意を得て、その後改善していけるよう努めている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	スタッフ全員が虐待があってはならないことを理解し、学ぶ機会も持っている。言葉や態度の虐待にも注意している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度を学ぶ機会があり、必要性がある方には話し合い、活用できるよう支援している。現在権利擁護2名利用されている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前には、説明をし、家族の要望や不安な点にも十分対応し、理解・納得を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会時に、利用者・家族の意見や要望を伺っている。意見箱やアンケートの設置も行っており支援の向上につなげている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	事業所会議や毎日の申し送り時に意見交換したり、日常的にもその都度相談しあったりして運営に反映させている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	スタッフの能力や努力・実績を把握し、各自が意欲・向上心を持って働けるよう、環境や条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の能力や力量を把握し、法人内外の研修へ参加出来る機会を設け、向上心とやりがいをもちながら働けるよう進めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会や勉強会などで、他事業所と交流する機会を作りサービスの質の向上につなげている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の要望に耳を傾け、不安に思っていることを納得いくまで話し合い安心してもらえるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が不安に思っていることをきちんと受けとめ、解決できるよう相談しやすい環境づくりに努め家族が安心できる関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族がその時一番必要としているサービスを見極め、適切かつスピーディに提供できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人ができることを見つけていき必要とされる事で、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族が面会時、本人の今の状況、日常生活の状況を伝え、本人の現状を理解してもらい家族と過ごす時間を有意義に過ごせるよう支援していく関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自治会・敬老会への参加、家族・友達との外出・外食、理美容院利用等、本人が今まで大切にしてきた友人関係、馴染みの人との関係を継続できるよう支援に努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者一人ひとりを把握し、利用者同士関わりを持つことで安心できる関係になるよう支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後家族と接する機会があった時には、本人・家族の近況や体調などその後を伺い相談や支援ができるよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常より本人の思いや要望に気付くよう心掛けている。言葉かけや対話を重んじ、精神面、健康面の安定に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴・習慣・家族構成を把握し、これまでのサービスが適合していたか等、見直している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の有する力を見極め、生活に必要な役割を担ってもらっている。責任感が芽生えている方もいるが、無理強いはいはしない。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	現状態を家族に話し、より良く暮らす為の工夫・課題を相互に相談しあい建設的な支援計画になるよう作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常の言動・気づき・体調不良等スタッフ間で情報を共有しながらケアプランの見直し、実践に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々本人や家族に生まれる問題を把握し、ニーズに沿った支援・解決策が柔軟に計れるよう多機能化に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域での行事・催し物などを受け入れ、参加し、自治体青年団とも連携体制が整っており安全で豊かな暮らしができるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望を重視し、かかりつけ医を大切に、その時、その状態にて適切な医療を受けられるよう支援している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師連絡ノートを作成し、情報交換して適切な受診を受けられ、緊急時の対応にも受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は安心して治療ができるよう病院関係者と情報交換・相談しながら早期退院に努め退院後も安心して生活できるよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や、終末期のあり方について家族と話し合い納得の行くよう支援する。看取りまでお願いされた場合も、主治医と密に連携し家族の要望にかなうよう支援する。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署より、定期的に救急指導(AED・応急手当・対処法)の訓練を受けており、主治医・救急車の連絡が迅速に対処できるよう取り組んでいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	消防署立会いにて避難・消火訓練を行い、地域の青年消防団と連携、全職員が緊急時にすばやく避難・消火できるよう日常的に訓練を行っている。 各部屋のカーテン・カーペット等防災用を使用している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人個人の生活環境などを理解し人格を損ねること無く、声かけや会話をするように心がけ、ドアの開閉やその都度カーテンを閉めるなどプライバシーの尊重にも努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の言葉に傾聴し何を伝えたいのか理解するまで問いかけたり、身振り手振りを加えて自己決定を表現できるよう働きかけている。難聴の方にはもっとゆっくり時間をかけて働きかける。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	体調やそれぞれのやりたい事、必要な事などを含めてリズムが乱れないように軽運動やレクリエーション、作業などを支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣服の汚れがあれば着替えたり、髪をいったり爪を整えたり、定期的に理髪店を利用してカットしてもらったり、女性は上下のコーディネートができるよう特に気をつけている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の野菜、果物を使って色とりどりの盛り付けを心がけ食欲をそそるようにして、季節の行事やお誕生日会など特別な日を設け食事を行事に合ったメニューにし楽しみを増やしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	夏などは特に水分補給に気をつけ、こまめに摂取して頂き、飲み込み等が悪い方にはミキサー食その他体調の悪い方には主治医に相談しながら栄養のバランスが悪くならないように支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯磨きをできる方はして頂き、うがい薬を使ったうがいの方、入れ歯はポリドントにて口腔ケアをして清潔でいられるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定期的にトイレの声掛けをし、時間時間でトイレの習慣を定着させている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘がないように食事の工夫もしており毎日の排便の有無(排便チェック表)を確実に把握しており、下剤等の調整もしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎日の入浴が可能であり、入浴前に本人の希望に合わせてたり、伺ったりと支援している。足湯や清拭も行っている。(入浴できない時など)		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自室の温度管理、日中にシーツ交換や布団干し、窓を開け空気を入れ替えをし、気持ちよく良眠できるよう、又、話などを聞き安眠できるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医療機関の指示を受け、薬は全て施設で管理し、薬ファイルで用量・用法・症状により理解し服薬を支援する。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	興味や趣味、またその時の本人の気分などを考慮しながら集団レク、個人レクを楽しく出来るよう支援をする。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	苑外周りのお散歩、花見、運動会見学(幼稚園)など出掛けるよう支援している。また、家族との外出も無理のないよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は家族が行っており、必要なものは家族で用意して頂くか施設で立替をし、請求を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の希望でいつでも電話をお貸しして利用できる。携帯電話をご本人が持たれている場合もある。手紙などは代筆や投函の支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	建物は木造平屋で木のぬくもりであふれており天井も高く、広々としている。照明も明るすぎないようにしている。有線もあり、懐かしい曲などを聴いて楽しまれている。お雛様や五月人形、七夕飾りなど苑内に飾り、季節感を出し、苑内は四季折々のお花がある。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	苑内にはどこにでもイスやソファを置いていて、リビングにはテーブル、イスはもちろんソファ、健康器具等も設置しており、また畳間でゆっくり休むことも出来る。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の使い慣れたもの趣味のものなども持ち込むことができ、好みのもので個々のお部屋の中は違う。身体の不自由さに応じて、配置も変え、居心地良く過ごせるようにしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室以外の廊下等には手すりを設け、歩行しやすいようにしている。居室内もケガが無いようにベッドに手すり、コールも2ヶ所用意し、安全に自立して生活できるようにしている。		